

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ヤマガタケンコウリツダガクカクジン 山形県公立大学法人									
フリガナ大学の名称	ヤマガタケンリツヨネダガクカクカクイン 山形県立米沢栄養大学大学院 (Graduate School of Yamagata Prefectural Yonezawa University of Nutrition Sciences)									
大学本部の位置	山形県米沢市通町六丁目15番1号									
大学の目的	豊かな人間性と、幅広く深い教養と知識のうえに、栄養に関する高度な専門知識と専門技術を身に付けた国際的な視野を有する人材を育成し、教育と研究の成果に基づき地域と社会に貢献することにより、県民の健康で豊かな暮らしの実現に寄与する。									
新設学部等の目的	健康栄養科学に関する高度な学術の理論及びその応用を教授研究することにより、学術研究を推進するとともに、基礎健康栄養科学領域又は実践健康栄養科学領域における指導的役割を果たす人材を育成し、教育と研究の成果に基づき、地域と社会に貢献することにより、県民の健康で豊かな暮らしの実現に寄与する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	健康栄養科学研究科 [Graduate School of Health and Nutrition Sciences] 健康栄養科学専攻 [Division of Health and Nutrition Sciences] 計	年 2	人 3	年次人 —	人 6	修士 (健康栄養科学)	平成30年4月 第1年次	山形県米沢市通町六丁目15番1号		
【基礎となる学部】健康栄養学部健康栄養学科 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻	講義	演習	実験・実習	計					
		11科目	7科目	2科目	20科目	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設分	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻（修士課程）			人	人	人	人	人	人
		5	2	1	0	8	0	2		
	計			(5)	(2)	(1)	(0)	(8)	(0)	(2)
既設分	該当なし			—	—	—	—	—	—	
	計			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合計			5	2	1	0	8	0	—	
			(5)	(2)	(1)	(0)	(8)	(0)	(—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体（山形県立米沢女子短期大学と兼務含む）				
	事 務 職 員		16 (16)	4 (4)	20 (20)					
	技 術 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	3 (3)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	2 (2)	2 (2)					
計		17 (17)	10 (10)	27 (27)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	山形県立米沢女子短期大学（5,000㎡）と共用				
	校 舎 敷 地	0㎡	32,144.00㎡	0㎡	32,144.00㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	4,177.00㎡	0㎡	4,177.00㎡					
	小 計	0㎡	36,321.00㎡	0㎡	36,321.00㎡					
	そ の 他	0㎡	7,228.94㎡	0㎡	7,228.94㎡					
合 計	0㎡	43,549.94㎡	0㎡	43,549.94㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	山形県立米沢女子短期大学（4,900㎡）と共用				
		4,831.90㎡ (4,831.90㎡)	12,605.80㎡ (12,605.80㎡)	3,234.80㎡ (3,234.80㎡)	20,672.50㎡ (20,672.50㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体（山形県立米沢女子短期大学と共用含む）				
	14室	7室	17室	3室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 1人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻		8 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等单位での特定不能なため、大学全体の数		
	健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻	14,500 [1,710] (14,438 [1,702])	75 [29] (70 [24])	11 [11] (11 [11])	123 (123)	805 (805)	20 (20)			
	計	14,500 [1,710] (14,438 [1,702])	75 [29] (70 [24])	11 [11] (11 [11])	123 (123)	805 (805)	20 (20)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体（山形県立米沢女子短期大学と共用）		
		984.00㎡		138		122,700				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
		1,069.26㎡		テニスコート2面		-				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※学生納付金は上から、県内出身者、県外出身者
		教員1人当り研究費等		538千円	538千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	-	-	-	-	
		図書購入費	750千円	1,500千円	1,500千円	-	-	-	-	
	設備購入費	2,500千円	-	-	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	818千円	536千円	-千円	-千円	-千円	-千円				
	1,100千円	536千円	-千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金、雑収入							

既設大学等の状況	大学の名称	山形県立米沢栄養大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	健康栄養学部 健康栄養学科	年	人	年次人 3年次	人	124	学士(栄養学)	1.08 1.08	平成26年度	山形県米沢市通町六丁目15番1号
	大学の名称	山形県立米沢女子短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	国語国文学科	2	100	—	200	短期大学士(国語国文学)	1.15	昭和45年度	山形県米沢市通町六丁目15番1号	
	英語英文学科	2	50	—	100	短期大学士(英語英文学)	1.21	昭和59年度		
	日本史学科	2	50	—	100	短期大学士(日本史学)	1.13	昭和59年度		
	社会情報学科	2	50	—	100	短期大学士(社会情報学)	1.14	平成6年度		
	附属施設の概要	該当なし								

山形県公立大学法人 大学院設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

山形県立米沢栄養大学		3年次		
健康栄養学部健康栄養学科	40	4	168	
計	40	4	168	
山形県立米沢女子短期大学				
国語国文学科	100	—	200	
英語英文学科	50	—	100	
日本史学科	50	—	100	
社会情報学科	50	—	100	
計	250	—	500	

平成30年度

入学 編入学 収容 変更の事由
定員 定員 定員

山形県立米沢栄養大学		3年次			
健康栄養学部健康栄養学科	40	4	168		
計	40	4	168		
山形県立米沢栄養大学大学院					大学院新設 (認可申請)
<u>健康栄養科学研究科</u>					
<u>健康栄養科学専攻(M)</u>		<u>3</u>		<u>6</u>	
計		<u>3</u>		<u>6</u>	
山形県立米沢女子短期大学					
国語国文学科	100	—	200		
英語英文学科	50	—	100		
日本史学科	50	—	100		
社会情報学科	50	—	100		
計	250	—	500		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	健康栄養科学概論	1前	2			○			3	2	1				オムニバス		
	健康栄養科学基礎演習	1前	1				○		3						オムニバス		
	医学医療論	1前		2		○			1								
	公衆衛生学特論	1前		1		○			1								
	研究方法論	1前	2			○			3						オムニバス		
	統計学基礎演習	1前		1			○		1								
	地域栄養活動論	1後	1			○			1								
	コミュニケーション論特論	1後	2			○									兼1		
	経営マネジメント論	2前		1		○									兼1		
	小計(9科目)	—	—	8	5	0	—	—	—	5	2	1	0	0	兼2		
専門科目	基礎健康栄養科学領域	基礎健康栄養科学特論Ⅰ (栄養生化学・分子病態栄養学分野)	1後		2		○			2						オムニバス	
		基礎健康栄養科学特論Ⅱ (食品栄養学・調理科学分野)	2前		2		○			1		1				オムニバス	
		基礎健康栄養科学演習Ⅰ	1後		1			○		2						オムニバス	
		基礎健康栄養科学演習Ⅱ	2前		1			○		1		1				オムニバス	
		インターンシップA	2前		3				○	1							
	小計(5科目)	—	—	0	9	0	—	—	—	3	0	1	0	0	0		
	実践健康栄養科学領域	実践健康栄養科学特論Ⅰ (栄養管理学分野)	1後		2		○				2						オムニバス
		実践健康栄養科学特論Ⅱ (公衆栄養学分野)	2前		2		○			2							オムニバス
		実践健康栄養科学演習Ⅰ	1後		1			○			2						オムニバス
		実践健康栄養科学演習Ⅱ	2前		1			○		2							オムニバス
		インターンシップB	2前		3				○		1						
小計(5科目)	—	—	0	9	0	—	—	—	2	2	0	0	0	0			
特別研究	1・2通	10	0	0			○		5	2	1						
小計(1科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	5	2	1	0	0	0			
合計(20科目)			—	18	23	0	—	—	5	2	1	0	0	兼2			
学位又は称号		修士(健康栄養科学)			学位又は学科の分野			家政関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
必修18単位(基礎科目8単位と専門科目の特別研究10単位)を含め、30単位取得を修了要件とする。選択科目については、特別研究課題に応じて専門科目のいずれかの領域の特論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱは選択必修とし、そのほかは、基礎科目、専門科目から選択する。なお、特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格することにより単位を認定する。								1学年の学期区分				2期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	健康栄養科学概論	<p>「健康栄養科学」とは何かについて、地域健康栄養課題と「健康栄養科学」の関わり、そして、授業担当教員の専門分野における知識や将来への展望を掌握し、本研究科が志向する「健康栄養科学」研究とは何かの全体像を多面的に掌握させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 高橋和昭/4回) 健康栄養科学概論のオリエンテーション、遺伝子・分子レベルでの近年の栄養生化学研究成果の紹介解説、全体のまとめ</p> <p>(2 大和田浩子/3回) 地域健康栄養課題と公衆栄養学研究の紹介解説</p> <p>(4 佐塚正樹/2回) 健康栄養科学概論と食品栄養学研究の紹介解説</p> <p>(2 寒河江豊昭/2回) アミノ酸、脂肪酸、単糖類レベルでの臨床栄養学研究の紹介解説</p> <p>(3 金光秀子/2回) 高齢者の栄養管理における実践的研究の紹介解説</p> <p>(4 江口智美/2回) 食品物性に関する調理科学研究の紹介解説</p>	オムニバス方式
	健康栄養科学基礎演習	<p>科学論文とは何か、地域の課題を含んだ健康栄養科学関係など、担当教員のそれぞれの分野の論文を例に文献検索、文献収集、文献内容の把握(ディスカッションも含む)、そして把握した情報のプレゼンテーションという一連の流れを演習して健康科学研究のための情報収集・内容把握の仕方を掌握させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 佐塚正樹/5回) 食品栄養学論文の概要、食品栄養学関係レビューの検討、食品栄養学関係文献の収集と内容把握、プレゼンテーション</p> <p>(3 金光秀子/5回) 高齢者の栄養管理に関する論文の概要、高齢者の栄養管理関係レビューの検討、高齢者の栄養管理に関する文献の収集と内容把握、プレゼンテーション</p> <p>(1 大益史弘/5回) 公衆衛生学論文の概要、保健統計指標、食品保健、環境保健、ヘルスプロモーション</p>	オムニバス方式
	医学医療論	<p>医学医療論は、医学の概念、医の倫理、その発展の歴史を学び、特に、栄養学との関わりを理解の上で、現代医学のトピックスを取り上げ、その概要についての理解を深める。さらに、医学の社会的実践である医療について、現行の日本における制度とともに、山形県の現状・課題や多職種連携について学び、栄養専門職としての活動に生かしていく能力を涵養する。なお、医療については、実践者をゲストスピーカーとして招き、現場の声を聴く。</p>	
	公衆衛生学特論	<p>公衆衛生学の歴史を学習することを通じて、その学術的意義・背景を展開する。そして、公衆衛生学発展の歴史と共に重要な役割を果たしてきた疫学について学習し、疫学を用いた保健統計データから近年の動向を把握する分析力を養う。また、環境問題に関わる高度な知識を学習し、環境と健康の相互作用について学習する。以上をもって、人間の健康に影響を及ぼす環境(社会・自然)における山形県の課題点についてのプレゼンテーションを演習形式で行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究方法論	<p>健康栄養科学領域研究における研究の概念、研究を実施する上で必要な倫理的配慮、研究方法の多様性とその特徴及び具体的な研究方法について修得する。すなわち、研究対象である人間や実験動物を利用した研究で留意すべき事項の習得、研究に使用する危険試薬等の取り扱いや環境に関する留意点についての理解を深め、自身の研究活動に活用できる能力を涵養する。さらに、様々な研究成果を社会に還元するための発表方法についても基礎的な事項について修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 一瀬白帝/5回)</p> <p>研究の概念 (1回)、研究を行う場合の基本的な倫理について (2回) 概説したあと、多様な研究方法の特徴 (3回)、人間を対象とした研究に関する留意点 (4回) について教授する。また、最後に全体のまとめ (5回) を行い、自身の研究に活用できるようにする。</p> <p>(3 高橋和昭/5回)</p> <p>動物を対象とした研究や危険試薬等の取り扱いに関する留意点を概説 (1, 2回) し、研究論文作成の基礎となる研究テーマと実験プロトコルの設定、観察と実験、データ解析、議論と結論の進め方 (3, 4, 5回) について能力を養い、自身の研究に活用できるようにする。</p> <p>(3 金光秀子/5回)</p> <p>人を対象とした食事調査等に関する留意点を概説 (1, 2, 3回) し、学会発表の方法 (4回) 及び研究論文の執筆方法を概説 (5回) することにより、自身の研究に活用できるようにする。</p>	オムニバス方式
	統計学基礎演習	<p>健康問題に取り組む上で必要不可欠な疫学の中において、統計学がどのように関わっているのかを理解し、まず統計学を活用する意義について学習する。そして、様々な疫学研究データを例示し、そのまとめ方と表現方法について学習する。統計学の基本的な原理の理解のために、数理科学的な説明を随時行いながら、統計学的推定及び検定方法について学習する。さらに、より高度な統計学的検定方法を段階的に学習し、それらの活用事例を紹介する。また、具体的な地域の健康課題に対して自ら統計学的手法を選択、分析し、その結果を考察する演習形式をとる。</p>	
	地域栄養活動論	<p>栄養専門職の仕事と関わりのある山形県の現状と課題を把握した上で、各領域 (保健、医療、福祉・介護、教育、食品産業、地域活動等) で指導的な立場を担っている栄養専門職をゲストスピーカーとして招き、地域の課題、関係者や関係機関との連携を含めた活動の実際について学ぶ。ゲストスピーカーを招いた授業を通して得た知見を基に、ディスカッション及びプレゼンテーションを重ね、指導的な立場で地域マネジメントを行うことができる能力を涵養する。</p>	
	コミュニケーション論特論	<p>栄養専門職が所属する職場で応用しうるコミュニケーションの基礎及び実際の方法として、カウンセリング、グループワークのファシリテーター、職場の人間関係、プレゼンテーションの4つのテーマを取り上げる。カウンセリングではマイクロカウンセリングの考え方を中心とし、技法の階層性を踏まえながら解説し、演習を行う。グループワークのファシリテーターでは実際にグループワークとファシリテーター役を経験し、ファシリテーターの意義や効果的な技法、姿勢・態度について解説する。職場での人間関係では、労働者の精神衛生やストレスマネジメントの観点から解説し、職場環境の維持のために必要な知識や姿勢・態度について説明する。プレゼンテーションでは、職場等において効果的に意思伝達を行えるようなプレゼンテーションの技法について概説し、演習を行う。</p>	
	経営マネジメント論	<p>組織・機関として遵守すべき法令等と、組織・機関の経営マネジメントの基礎的事項を学んで上で、栄養専門職が所属する関連機関の管理職等をゲストスピーカーとして迎え、給食経営管理を含む経営マネジメントの実際を学ぶとともに、職場におけるリーダーシップのあり方やリーダーの役割について学び、指導力を涵養する。さらに、栄養関連専門職の養成機関におけるマネジメントとリーダーシップについて、管理栄養士養成施設を例に挙げて学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎健康栄養科学領域	基礎健康栄養科学特論Ⅰ (栄養生化学・分子病態栄養学分野)	<p>基礎健康栄養科学Ⅰ分野での研究能力を養うために、栄養生化学分野の講義では、栄養素の過不足に応じて体内の代謝を変化させ恒常性を維持している状態を、また分子病態栄養学分野の講義では、体内の恒常性の破綻により生ずる疾病（生活習慣病）の発生メカニズムや代謝異常をそれぞれ分子、遺伝子レベルで解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 高橋和昭／8回) 栄養生化学分野（栄養素の過不足に応じて体内の代謝を変化させ恒常性を維持している状態担当） 代謝の統合と調節、代謝の統合と臓器分業、栄養素と情報伝達機構、栄養素と遺伝子発現調節について講義する。 (1 一瀬白帝／7回) 分子病態栄養学（恒常性の破綻により生ずる疾病（生活習慣病）の発生メカニズムや代謝異常担当） リポタンパク質代謝と脂質異常症、肥満、メタボリック症候群、動脈硬化症及びビタミンK依存性タンパク質代謝と血栓症（心筋梗塞、脳梗塞を含む）、骨粗しょう症について講義する。</p>	オムニバス方式
	基礎健康栄養科学特論Ⅱ (食品栄養学・調理科学分野)	<p>調理科学や食品栄養学は、本研究科の健康栄養科学の基礎にもなり、古くから地域的な課題も含んでいてQOL向上に欠かせない生活科学の一研究分野でもある。本特論では、調理科学や食品栄養学に係わる(地域的な問題も含んだ)健康栄養科学的な問題の解決に必要な専門基礎知識及び研究基礎能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 佐塚正樹／8回) 本特論のガイダンス、食品栄養学の概要、食品栄養学基礎研究論、食品栄養学に関係した地域的な課題研究論、まとめ (④ 江口智美／7回) 調理科学分野のガイダンス、調理科学の概要、調理科学基礎研究論、調理科学に関係した地域的な課題研究論</p>	オムニバス方式
	基礎健康栄養科学演習Ⅰ	<p>基礎健康栄養科学Ⅰ分野での研究能力を養うために、基礎健康栄養科学特論Ⅰの講義内容に関連する最新文献を教員の助言のもとに、学生自身が検索選定し講読し発表を行う。具体的には、栄養生理学と分子栄養学、遺伝子研究法と遺伝子と栄養、そして、リポタンパク質代謝異常と各種疾病、ビタミンの各種疾病の分子栄養学的研究の最新情報や研究の進展動向を知るとともに、その内容についてまとめて授業で発表することで基礎健康栄養科学特論Ⅰ講義内容を深く理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 一瀬白帝／8回) 分子病態栄養学分野に係わる文献講読と発表 (3 高橋和昭／7回) 栄養生化学分野に係わる文献講読と発表</p>	オムニバス方式
	基礎健康栄養科学演習Ⅱ	<p>調理科学や食品栄養学は、本研究科の健康栄養科学の基礎にもなり、基礎健康栄養科学特論Ⅱ（食品栄養学・調理科学分野）と並行して、演習を行う。本演習では、調理科学や食品栄養学に係わる(地域的な問題も含んだ)文献を収集して分析・検討してプレゼンテーションを行うことで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 佐塚正樹／8回) 本演習のガイダンス、食品栄養学文献の概要、収集、分析、検討、カンファレンス(文献発表会)、まとめ (④ 江口智美／7回) 調理科学文献の概要、収集、分析、検討、調理科学カンファレンス(文献発表会)</p>	オムニバス方式
	インターンシップA	<p>可能な限り地域密着型の研修内容にするために山形県内食品関連企業・団体等の研究開発部門での研修を行って、製品開発の実際を理解する。ただし、研修時期・内容などによっては県内企業に限らず、健康栄養科学的な製品開発のできる企業・団体等でのインターンシップを行う。</p> <p>商品開発能力とは実際に、市場に出て利益を上げる商品を開発能力であるが、その商品開発には商品候補になる試作品を開発する能力（製品開発能力）が欠かせない。本インターンシップではその製品開発の実践力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践健康栄養科学領域	実践健康栄養科学特論Ⅰ (栄養管理学分野)	<p>栄養管理学は、対象者の健康保持・増進及びQOL（生活の質）向上を目指している。本特論では、特に地域でニーズの高い高齢者の栄養管理及び傷病者の栄養管理について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(③ 金光秀子／8回) 高齢者の栄養管理の概念、高齢者に関する制度と栄養、食事摂取基準の理解及び活用と栄養管理、高齢者の栄養アセスメント・ケアプラン、栄養評価、社会資源の活用</p> <p>(② 寒河江豊昭／7回) 傷病者における傷病別の学会ガイドライン及び代謝の特徴、フィジカルアセスメントの理論、酸塩基平衡と疾病</p>	オムニバス方式
	実践健康栄養科学特論Ⅱ (公衆栄養学分野)	<p>公衆栄養学は、地域（人間集団）を対象とした健康保持・増進及びQOL（生活の質）向上を目指している。本特論では、地域（人間集団）の健康課題とその要因に関するデータを収集・分析し、総合的に評価するために必要な専門知識及び研究能力について修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 大和田浩子／10回) 公衆栄養マネジメント概念、栄養疫学の概念、食事摂取量の測定方法、Evidence-based nutrition (EBN)、栄養疫学研究の展開（山形県及び世界における公衆栄養課題と要因）</p> <p>(① 大益史弘／5回) 疫学研究デザイン、栄養疫学研究の展開（地域における公衆栄養課題と要因）、EBN</p>	オムニバス方式
	実践健康栄養科学演習Ⅰ	<p>栄養管理学の文献を読みながら、最新の知見を得るとともに、ディスカッション能力及びプレゼンテーション能力を培うとともに、栄養管理に関わる事例検討を行い、実践力を養う。実践健康栄養科学特論Ⅰの講義を踏まえ、高齢者及び傷病者の栄養管理に関するデータを収集・分析し、得られた結果を総合的に評価するために必要な専門知識及び研究能力について演習形式で修得する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(③ 金光秀子／8回) 高齢者の栄養管理に関する文献及び事例検討、プレゼンテーション</p> <p>(② 寒河江豊昭／7回) 傷病者の栄養管理に関する文献及び事例検討、プレゼンテーション</p>	オムニバス方式
	実践健康栄養科学演習Ⅱ	<p>実践健康栄養科学特論Ⅱの講義を踏まえ、公衆栄養学の文献を読みながら、最新の知見を得ると共に、ディスカッション能力及びプレゼンテーション能力を培うと共に、公衆栄養に関わる事例検討を行い、実践力を養う。文献や事例検討では、地域課題を含めることとする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 大和田浩子／10回) 公衆栄養分野の文献検討、公衆栄養分野の事例検討、栄養疫学研究の事例検討</p> <p>(① 大益史弘／5回) Evidence-based nutrition (EBN)に関する文献検討</p>	オムニバス方式
	インターンシップB	<p>県民の健康保持・増進及び傷病者の重症化防止を行うために、県内医療施設、福祉施設、行政機関において研修を行う。研修では栄養ケア・マネジメントを基本とし、医療施設及び福祉施設では、傷病者の「スクリーニング」「アセスメント」「栄養ケアプラン（栄養補給）（栄養教育）（多領域からの栄養ケア）」「モニタリング」の流れに沿って栄養ケア・マネジメントを実施し、疾病の重症化防止の現状を経験する。</p> <p>行政機関では健康長寿の施策に基づき、地域住民、集団に対する「課題の抽出」、「改善策の検討」、「経過評価」の実施を経験することにより実践力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>担当教員の指導のもと、研究課題を設定したうえで、研究指導を進め、その成果についての論文指導を行う。 担当教員が指導する主な研究課題は、次のとおりである。</p> <p>(1 一瀬白帝) 本県民の死亡原因の最上位を占める血栓症（脳・心筋梗塞など）とその基礎にある動脈硬化、脂質異常、肥満などの治療／予防に関わる臨床栄養学分野の課題を、遺伝子／タンパク質の分子レベルで解明する方法について研究指導を行う。</p> <p>(2 大和田浩子) 公衆栄養分野の実践現場において、地域の健康課題を抽出し、その関連要因を解明する実践能力を育成するため、特に障がい児・者等を対象とした健康課題の抽出法及び関連要因等の解析法について研究指導を行う。</p> <p>(3 高橋和昭) 腸管免疫機能及び腸管上皮細胞構造や細胞間結合などのバリア機能そして抗酸化機能などの生体防御機能調節に対する栄養及び非栄養素さらに腸管内の微生物叢の役割について遺伝子レベルでの研究指導を行う。</p> <p>(4 佐塚正樹) 食品栄養学の立場に立ち、地域的な問題にも取り組める研究能力の基礎を身に付けさせる。修士課程で修得した研究基礎能力は企業での研究開発や博士課程進学に欠かせない。特に本研究室ではラボレベルでの基礎科学研究能力の修得を一番の目的に研究指導を行う。</p> <p>(2 寒河江豊昭) 臨床栄養分野における新たな栄養量の設定方法と指標（タンパク質量と非タンパクエネルギー量との比）の作成を目的として研究を進める。主に疾病の病期における栄養代謝を修得し臨床現場に対応した研究指導を行う。</p> <p>(3 金光秀子) 地域の高齢者及び高齢者福祉施設の現場において、高齢者の栄養管理に関する課題を抽出し、その関連要因を解明することによって、高齢者の栄養改善を目的とした研究の指導を行う。</p> <p>(1 大益史弘) 予防に重点が置かれている公衆衛生学において、生活習慣病、母子保健、精神保健、環境衛生等をテーマとして、その一次予防的な研究課題を設定する。主に疫学的手法を用いて地域の健康課題に取り組むことを重視した研究指導を行う。</p> <p>(4 江口智美) 調理科学分野において、おいしさと健康のための食品機能改善を目指した研究実践能力を育成するため、特に食品物性と摂食者の咀嚼性及び嗜好性の関係について解明するための実験法及び解析法について研究指導を行う。</p>	